

令和 5 年度第 2 回図書館協議会会議録

日時：令和 6 年 3 月 1 8 日（月） 午後 3 時～午後 4 時 4 5 分まで

出席者：

- ・（委員長）長谷川小百合
- ・（委員）寺井昌人、新保憲子、伊藤道秋
- ・（図書館司書）曾我由香里、神田純子
- ・教育長 神田武司
- ・（事務局）生涯学習課長 塚野敏之、生涯学習課長補佐 山寄美佳、
図書館係長 岩城美千代、主事 石田愛香音
- ・（傍聴者）1 人

議題：

- ・第二次阿賀野市子供読書活動推進計画素案について
- ・令和 5 年度図書館統計の実績見込み及び事業報告
- ・令和 6 年度事業計画(案)について

○生涯学習課長

本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、ただいまから阿賀野市立図書館協議会を開催させていただきます。なお、A 委員それから B 委員、C 委員、D 委員から、本日の会議を欠席する旨の連絡をちょうだいしておりますので、お知らせいたします。

初めにお願いがございます。議事録作成のためこの会議を録音させていただきますので、よろしくお願いいたします。機械により議事録が自動に作成されますので発言につきましては、相互に重ならないようお願いいたします。

またこの会議は、阿賀野市審議会等の会議の公開に関する要綱第 2 条に該当する協議会となりますので公表させていただきます。公表の方法は傍聴による公表いたしますけれども、今現在、傍聴者の方は 1 名であります。また議事録につきましてもこれより公表させていただきますのでよろしくお願いします。阿賀野市のホームページ等で掲載させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは初めに神田教育長からご挨拶を申し上げます。お願いいたします。

○教育長

2 月あたたかいと思ったら寒い吹雪になったり、風は冷たいのですが梅が咲いた

り、春らしさを感じは感じられますが、いかがお過ごしでしょうか。学校は今週卒業式になりますね。幼稚園の方も最後の追い込みに入っている頃かなと思うところでもあります。それぞれ年度末というと、花も植物も動き出すということでお忙しい方も大勢いらっしゃるかと思いますが、本日は令和５年度第２回図書館協議会お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

本日の議題は、令和５年度第１回図書館協議会から進めております第二次子ども読書活動推進計画の素案についての協議、そして令和５年度の合計実績と事業報告、さらには令和６年度の事業計画案のご審議をいただく予定でございます。

第二次子ども読書活動推進計画の素案について、子どもたちの豊かな心の育成と健やかな成長のためによりよい計画となりますよう委員の皆様にご協議いただきたいと思っております。

また、今年度は令和２年度より始めましたパワーアップ事業の最終年でございました。親子で楽しめる図書館を目指して、蔵書の充実、読書環境の整備を進めて参りました。来年度は、このパワーアップ事業で増加した利用者の定着を図っていきたいと考えております。またアイデアありましたら、教えていただければありがたいと思っております。

皆さんの忌憚のないご意見お聞かせくださいますようお願いを申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○生涯学習課長

ありがとうございました。早速ではありますが、阿賀野市立図書館協議会規則第二条第３項の規定に基づきまして、委員長に議長をお願いしまして議事進行についてもあわせてお願いしたいと思います。

○委員長

それでは会議次第に基づきまして、議題に移ります。議題１、第二次阿賀野市子ども読書活動推進計画素案を事務局から説明をお願いします。

(第二次阿賀野市子供読書活動推進計画素案について説明)

○委員長

第二次計画の策定について、この協議会の委員で素案の内容を確認し、意見を出しながら進めるとのことでしたが、ただいまの議題について質疑、意見などありますでしょうか。ありましたら挙手にてお願いいたします。

○事務局

今回この協議会で、特に皆様の方から協議していただきたいのは第二次計画の方策ということでございます。また、この計画の体裁ということでございまして、今回差し替えということで、この表形式のものをご覧いただいておりますが、もう一部同じような題名で表ではなく文章化したものをお手元にお配りしております。

事務局では、この表形式が堅苦しく読みづらい面、わかりにくい面があるという意見を踏まえて、もう1つ案といたしまして文章化したものを今回協議会で皆様に見ていただきたいと思い、お配りしたところでございます。この文章化した方も、優しい表現となっているかというところはまだまだであると思います、そのことについても皆様の意見をお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員長

ご意見ございましたら挙手にてお願いします。

○委員

読書活動推進計画の素案の、上から1ページ目2ページ目に当たるところですが、最初に家族の読み聞かせをしている人という記載があり、次に読み聞かせの回数の記載がありますが、子どもにとって問題なのは、家族のだれが読み聞かせするかということよりも読み聞かせの回数が減っているということの方が、私としては大きな問題ではないかと思っています。ですから、課題を提示するときに、読み聞かせの回数が減っていて、そして読み聞かせをする人は母親の割合が高いので、家族で分担をして、もっと回数を増やしていくという流れの方が、課題として設定しやすいのかなと思いました。構成上の話だと思いますが、読ませていただいてそう思いました。

○委員長

他にご意見ございませんでしょうか。よろしくお願いいたします。

○委員

全体的に本離れを取り返すことは、大変難しいことだと思います。

特に、いわゆるヤングアダルト世代。その辺がすごくポイントだと思います。ただ様々な政策をしてもその世代に読書の重要性が伝わるか、大変難しい問題だなと思います。

根本的にまず幼児から始まり、その幼児たちが小学校、中学校、高校へ行き、読書離れしていかないように、右下がりにならないように、基本的にそこに力を入れ

るしかないのではと思います。

具体的には学校図書館が利用しづらいと書いてありましたが、それは言い訳にすぎないと感じます。中学、高校での教育の過程で、本の必要性、例えば、資料を調べるということはインターネットで簡単に調べられるという現状です。しかし、それだけではなく、あわせて本でも調べなきゃいけないよということを、学校で教えていく必要があるという気がしてならないですね。

この推進計画素案に対する注文ではないのですが、その辺のところは核として持っていなければならないと思います。

○委員長

その他にご意見ございませんでしょうか。図書館の職員の方から見て、図書館離れという意味でも、この素案はどうなのかなと何か意見あれば、個人的にでもいいのでお願いします。

○図書館司書

この内容を職員で話し合っている段階で、いろんな意見を取り入れてこういう形にまとまりました。

学校に読み聞かせに行くと、子どもたちはすごく喜んでくれていて、実際に終わってから近くに来て楽しかった、よかったよと言ってくれる子もいるので、実感として喜んでもらっているという部分もあります。言わなくても楽しんでくれている子も多いと思います。全員がよかったよと言ってくれるわけではなく、逆に嫌いな子もいると思いますが、言葉として言わなくてもちゃんと聞いてくれているのだなというのはいろいろなところから感じることができます。

本が嫌い、読み聞かせを聞きたくないというのはあまり感じてはいません。ただ、図書館の利用や貸出の部分では様々な事情で図書館に来れない子もいるだろうし、子どもが1人で来ることが難しいところもあると思います。

たくさんの方に来ていただけるよう、実際に借りられていない本もたくさんありますし、逆にこれはすごく借りられているという本もたくさんあるので、今現在でできることあれこれやってはいますが、またいろんな目線から取り組みを考えて動いていく必要があるのかなと思いました。

○委員長

イベントをやると図書館を利用される方増えると思うので、ただ図書館を利用してもらいたいということであれば、イベントを増やせばいいだけですが、今回は子どもたちの読書を推進したいということですよね。

ちょっと観点が違うのかなとも思うのですが、ただ取っかかりにはなると思うので、同時進行できたらいいと思います。

○図書館司書

私が感じたのは、この素案委は家庭における取り組みと課題が書かれています。ここ 10 年でだいぶ祖父母の読み聞かせが減っているということや、核家族が増えていることは感じます。また兄弟も減っていて、上のお子さんが下のお子さんに読むという家庭環境もまた変わってきていると思うので、そのあたりは図書館の職員がフォローしていかなければならない部分だと感じました。

地域での取り組みと課題の部分では、前面に図書館の立場が書かれていますが、図書館だけではなく市の方からも何かできないかと思いました。ボランティアの養成講座とか図書館主催の講座以外に、阿賀野市が何かできないかと感じました。

あと学校の取り組みと課題ですが、私は中学校に勤務しております。中学校の利用が去年はすごく少なく、今までで一番利用人数が減少しました。児童数が少なくなっているのも原因と考えられますが、かといって貸出が減っているのかというと、特定の子が借りるので、貸出が特に落ちているということでもありません。そんな中で利用人数が少ないということは、最近本に対しての関心が薄くなっている感じがします。

アンケートでは、本が好きですかという質問に対して、ここ 10 年の間に中・高生がとても低くなっているというのがとても残念です。たぶん SNS、インターネットの動画、YouTuber とかが今、子どもたちの中でとても流行っていて、テレビを見ない。テレビを見ずに動画を見るという環境に今あるので、1 日中そういった環境にさらされて、まず活字を見ることが少なくなっているんじゃないかと最近感じます。

子どもが来るような環境にするのに、アニメや話題性のある映画になった作品とか、そういった本を入れれば来てもらえるのかと思いますが、まず活字を読まない。かといって、漫画を読むかというところ最近の子は漫画もあんまり読まないという感じがここ 2・3 年しています。ブラックジャックとか、はだしのゲンとか、手を伸ばさない子が最近増えてきたように思います。現状としてはインターネットや SNS 等の影響が強いのではないかと私は感じました。

先ほども言いましたが、本の重要性をもう少し打ち出していないと、本を手にとらない。また学校の授業でも、本で調べましょうという機会が少なくなっているのではないかと。コンピューター室に行って、コンピューターで調べましょう。はい、終わり。ではなくて、先生方にも、コンピューターで調べたものが正しい情報

なのか、本でも調べてみましょうというふうに、本とインターネットを組み合わせ、正しい情報を調べるということを、これから生徒に対して指導してもらいたいと思いました。

○委員長

今は、辞書で調べるとか授業にはないですか。

○委員

一番関係しそうなのが総合学習の時間で、例えばリサイクルを調べるときに、インターネットで調べてこういうふうになるのだなど、資料を集める場合があります。ただインターネットは断片的な知識であり、それがまとめられていなかったり、1つのページにすべてが出ているわけではありません。本は1冊の中に大体網羅されているので、学級担任としては、インターネットにはこう書いてあるけど図書ではどうかなというような問いかけをして、本を手にとらせる。本を手にとって、もっと詳しく調べるという活動は、どこの学校でも行われていると思います。

○委員長

そのように図書館と学校をつないで、子どもたちに本を進めることがもっとできたらいいですね。そうすれば、もう少し本にも手が伸びるのかなと今聞いていて思いました。

○図書館司書

小学校だと、学校の先生がこの授業にこういった本を使うので貸してくださいという団体貸出はよくあります。しかし中学校に市民図書室があるのですが、なかなか学校の先生がこちらの図書室まで足を運んでいただけない。こちらの働きかけも足りない点があり、なかなかうまくいかない。修学旅行の事前学習で利用いただけるといいのですが、ネットと比較して、本の情報が古くなっているということもあります。先生との上手な繋がりができると、もっと上手に本を使ってもらえるのかなとも思います。

○委員長

横のコミュニケーションとれるともっと子どもたちにいい影響があらわれるかもしれないですね。

○事務局

団体貸出ということで、今回新たに加えた点があります。先生方が貸出や返却に、この遠い図書館まで来てくださっていましたので、先生方の負担軽減の点からも、図書館の方で学校に直接配送するということができればと思ひまして、今回加えた次第でございます。それは園の方も一緒です。皆さん忙しく図書館にいけないという意見がありましたので、そこまで図書館職員の手が回るのかなという心配はありますが、考えていこうと思っております。

○委員

借りるのはすごく楽しいけど、返却となると期限があるということで、貸出配送をしてもらえるのであれば、ありがたいなと思ひお聞きしました。

メディア環境に囲まれた中で図書館の絵本とのつき合いというところでは、幼稚園は、メディアから隔離された不自由さの中で、楽しんで絵本や図鑑に親しむ環境が整っている場所ではあるのかなと思ひながら聞いていました。

特に0歳児から絵本に親しむというところでは、小さくてもわからないわけではないのですよ、0歳児であってもお母さんの膝の上でお母さんの声で聞かせてもらったその言葉というのは子どもたちの中にうれしい言葉として入っていくのですよと、絵本の大切さ、親子での絵本の時間を大事にしましょうと、保護者の方にも話をしているところです。

幼児期の絵本との出会い、保護者が子どもに読み聞かせるというような場も、今後子どもたちが自分たちで本を開くきっかけになる大事な場なのかなと改めて感じたところです。

○委員長

教育長お願いいたします。

○教育長

いろいろ書いてありますが、阿賀野市として何が課題で、どういう姿を求めるのかというところを端的に四角囲みでぱっと書いてあるといいと思います。

具体的に、小学生低学年は年間何十冊、中学年は何十冊、高学年は何十冊、を目標に本を読もう、読むようになろうとかを具体目標として、計画を見て、何を目標しているのかがわかるように示すと良いと思う。それをするために何をするのかが次来るわけですから、話は持って行きやすいです。

あと、小さい頃から本に親しませるということは大事なことですよと、おうちの人に理解していただいて、言語感覚を磨き、日本語の感覚を身につける。何を言っ

ているのかわからなくても、日本語を聞くことの大切さ、本を介しての子どもとのコミュニケーション。これなにを言っているのだろうとか、この花綺麗だね、そうだねと語りかけながら本を読みますよね。そういうコミュニケーション力をつける上でも大切だよということを家庭の皆さんが理解して、そして図書館に行き、いろんな本を開いてみたりさせるという機会を作ることが大事です。

中学生や高校生は、先ほど興味関心がないとあったけれど、やっぱりコマーシャルしないと駄目だと思います。

イベントも1つのコマーシャルになると思いますが、コマーシャルして面白い本が入りましたよっていうふうなことを、やらないと図書館に行ったら何が面白いのかわからない、だから来なくなるのではないかな。

例えばハウルの動く城でも原作があってカルシファーと火の悪魔っていうふうな原作があるのだよと、入り口に並べてあるとか、生誕何十周年の作者だよって言えばその類の本がたくさん並んであるとか。それに関する本があるって行ってみようかなと、読みたいなというふうになる。

もう1つは、学校図書館を子どもたちが興味ある図書館にするには、図書委員会の子どもだけに任せられません。子どもの考えは狭いので、指導する人間が大事です。誰が指導するかとなると、勉強も司書の免許も持っている教諭、図書教諭の免許持っている先生がいます。12学級以上の学校は配置しなければなりませんが、その司書教諭が学級担任をしていると図書館専属ではなく、時間に限度がある。子どもが行ってみようかなと思うような、図書館に注力する余力がない。そうすると、どういう結果を招くかというと、図書館の古い本の廃棄がうまくいかない。新しく買っても、入れる書棚は古い本で埋まっているから、新しい本が入るスペースがない。つまり、本が回転しないという状況にあります。

図書館は、興味ある物語を読むということと情報機能があって調べるといような作用がありますが、インターネットは、1人で自由に調べられるけど、本は冊数がないと自分の番に回ってこないの、1、2冊あっても駄目なのですね。社会科とか理科で何か調べるとなった時、ある程度の冊数がないと、人が見ている場合、自分が見られなくなる。調べ方も、パソコンで調べて、それからみんなで本を調べるとい方法だと、本の取り扱いになってしまう。だから、インターネットで調べると同じ土俵の上で、本で調べる人は本で、それからパソコンで調べる人はパソコンで、現地に行ったら調べる人は行ってみる。いろんな調べ方で調べてみましょう、ということです。

○委員長

いろんなことやってみると、取っかかりにはなっていないかもしれないですね。

○教育長

移動図書館があれば、子どもが集まってきて、楽しい本があるよとか、本の紹介があったりして、子どもたちが貸してって言ったりする姿が見れるかもしれない。何日、何曜日になると、移動図書館が回ってくるから楽しみだよねって待っていようかなとなるかもしれない。

○委員長

そういう考えも一つの考えかと思います。ありがとうございました。皆様からいろいろなご意見ご提言がありました。

事務局にはこれらを踏まえて計画の策定を進めていただきたいと思います。次に、議題2 令和5年図書館統計の実績見込み及び事業報告を事務局から説明をお願いします。

(令和5年度図書館統計の実績見込み及び事業報告)

○委員長

ありがとうございました。ただいまの議案について質疑、ご意見などありましたら挙手にてお願いいたします。

ないようでしたら、次に議題3 令和6年度事業計画案について事務局から説明をお願いします。

(令和6年度事業計画(案)について説明)

○委員長

ありがとうございました。ただいまの議案について質疑ご意見などありましたら挙手にてお願いいたします。

ないようでしたら、議題としてはこれで終了いたしました。

何か最後に感想とか、ご意見などあれば、いかがですか。お願いいたします。

○教育長

図書館にはなかなかお店では見ない本がある、つまり地域の本。地域の本のコーナーもあるわけだから、その辺の本の収集というのも1つの着眼点だなというのが

1つ。

2つ目は、今年学校の図書費の予算を増やしていただきました。だから図書費の割り当てが去年よりも多いです。図書館司書の方にも、学校の図書館が新しくなっているかぜひ点検しに行ってください、新しくなりましたねとか、10年前の本もいっぱいありますねとか、言ってもらえると非常にありがたいというのが2つ目。お金を多くもらったのですから、有効に早く興味ある本を買ってもらいたいと思います。楽しい本を買って、たくさんの子どもの読んでもらうためには、図書費を1学期のうちに全部使うぐらいの勢いで買わないともったいないという気持ちです。

3つ目は、朝読書。朝読書というのは短い時間で集中して、時間を有効に使い本に親しむというもので、いいチャンスだと思います。そのことについても学校教育課などから声掛けしてもらえるとありがたいです。

本を読みなさいといわれるのは、小中学校時代ぐらいです。高校になったらもう本を読みなさいなんて先生は言わないです。小中学校時代は、本を読むという、読むために重要な時間なのだと、読んでいるうちに好きになったというふうになるといいなと思いました。

○委員長

そこに本があるから読むのだというふうになると本当に理想的だと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

会議の進行にご協力いただきまして大変ありがとうございました。

なお、その他ということで事務局より説明がありますので、よろしくお願いいたします。

○事務局

阿賀野市子ども読書活動推進計画で、体裁について皆様のご意見をここでお聞きして、方向性というか、こういったふうにまとめていくか、ご意見をお伺いしたいのですが、今この場では難しいと思いますので、後で改めてご意見いただきたいのですが。

○教育長

後で何の協議をするのか、文章にするかどうかということですか。

○事務局

皆様にお送りしたものが、表の形でお送りさせていただきました。お手元の方に、文章書きの方の資料をお渡ししているところでございます。文書書きの方が第

一次計画の形を元に作ったものです。

あともう1つ今回検証ということで、1-2で、様々な学校の課題取り組みをお話したところでございます。そちらの方も、五泉の方の書きぶりですと、表とか、そういった検証を省いて、教育長がおっしゃったように、課題とか取り組みとかを載せたような格好のものになります。

本当に視点を変えると全く違ってくるところでありますので、今この場で皆様のご意見というとなかなか難しいと思います、後日改めて意見お伺いさせていただければと思います。文書でまた依頼させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長

以上でございます。それでは、お願いします。

○生涯学習課長

大変長時間にわたりまして大変ありがとうございました。

皆様からいろいろご意見、提案ございましたけれども、今後事務局では、今回の提案いただきました意見を踏まえまして、素案を修正し、また令和6年度第1回図書館協議会までに皆さんに提示していきたいというふうに考えております。大変お手数ではありますが、よろしくお願いしたいと思います。

最後に、その他でございますけれども次回の会議の日程につきましては令和6年7月開催ということでお願いをしたいと考えております。具体的な日程につきましては追って事務局の方から連絡をさせていただきます。お忙しいところご面倒おかけしますがよろしくお願いいたします。

それではこれで、令和5年度第2回の阿賀野市立図書館運営協議会を閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

